

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)エステムコート八尾市光町1	階数	地上15F
建設地	大阪府八尾市光町	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	96人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,736時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年7月 予定	評価の実施日	2024年1月15日
敷地面積	569㎡	作成者	株式会社FKOアーキデザイン 深尾和巳
建築面積	219㎡	確認日	2024年1月15日
延床面積	2,824㎡	確認者	株式会社FKOアーキデザイン 深尾和巳



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.0

#### Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.3

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.3

#### Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.3

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.4

#### LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.9

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.1

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	専有部は遮音性能が高い建材を採用し、断熱性能を確保し、快適な室内環境を確保しつつ、冷暖房のエネルギー消費を抑えた建物としている。	その他 特になし
Q1 室内環境	自然の光と換気により快適な室内環境を実現し、遮音性能の高い建具の採用により、室内の音環境に配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 特になし
LR1 エネルギー	断熱性能確保し、冷暖房のエネルギー消費を抑えるよう計画している。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO <sub>2</sub> を参照値内におさめるよう配慮している。
Q2 サービス性能	耐久年数の長い配管を使用し、維持管理にも配慮した建物としている。	
LR2 資源・マテリアル	リサイクル材を積極的に採用している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】	建物名称	(仮称)エステムコート八尾市光町1丁目新築工事						
	建設地	大阪府八尾市光町						
	用途/区分	集合住宅						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						B+	
①	CO2削減						3	
②	みどり・ヒート アイランド対策						3	
③	建物の断熱性						4	
④	エネルギー削減						4	
⑤	自然エネルギー直接利用						○	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—
	エネルギー消費量の報告						対象外	
【評価項目】								
	項目	評価内容				スコア	評価	
①	CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.2	3	
②	みどり・ヒートアイランド対策							
	生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				2.0	3	
	敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3.2」のスコアによる評価				3.0		
	温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2.2」のスコアによる評価				3.0		
③	建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				4.0	4	
④	設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				4.4	4	
⑤	自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	○	
	エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	-	
その他								
		技術の名称			考慮事項			
	先進的技術の導入							
	特に配慮した事項	住戸の断熱性能を確保し、冷暖房のエネルギー消費を押さえた建物としている。						